

## 第56回日本小児血液・がん学会学術集会のお知らせ（第四報）

第56回日本小児血液・がん学会学術集会を下記の通り開催いたしますのでご案内いたします。

会 期：2014年11月28日（金）～11月30日（日）

テーマ：Domestic から Global へ ～ break through を求めて

会 長：小田 慈（岡山大学病院小児血液・腫瘍科/大学院保健学研究科 教授）

第56回日本小児血液・がん学会学術集会は、メインテーマを“Domestic から Global へ ～ break through を求めて”とし、上記の会期で開催されます。

メインテーマにそった国際シンポジウム、固形腫瘍を治療する上で必要不可欠となる他診療科との協働を推進することを目指した関連学会との合同シンポジウム、AYA世代への対応、さらには機能温存・晩期障害など、今後、重要な課題となる領域に関するシンポジウムが企画されています。そして、学術集会の原点に戻り、一般演題、特にポスター発表を大切にしたい学術集会となるよう、プログラム委員会一同、努力いたしました。

また専門医制度開始以降、さらに重要度を増している教育セッションについては、他のプログラムとの重複を可能な限り避け、参加される方々の利便を損なわないよう配置されています。

例年のように、小児がん看護学会との合同セッション、がんの子どもを守る会との共同開催によるチャリティマラソン、公開シンポジウムなども企画されています。

岡山は瀬戸内海と県北に連なる中国山脈沿いに点在する温泉に囲まれ、穏やかな気候の中で近郊の果樹園ではマスカットや白桃などの果物を産する地方都市です。市内には後楽園、少し足をのばせば倉敷の美観地区など、皆さまの心の憩いになる場所もあります。

是非、学術集会にご参加いただき、岡山でのご滞在を楽しんでいただけたら、幸いです。皆さまの御来岡をお待ちしています。

会 場：岡山コンベンションセンター、岡山シティミュージアム

〒700-0024 岡山市北区駅元町14番1号（TEL: 086-214-1000）

事 務 局：岡山大学病院小児血液・腫瘍科/岡山大学大学院保健学研究科

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

TEL: 086-235-7249 FAX: 086-235-6901

運営事務局：日本コンベンションサービス株式会社

〒541-0042 大阪府中央区今橋4-4-7 京阪神淀屋橋ビル2F

TEL: 06-6221-5933 FAX: 06-6221-5938

ホームページにて随時、情報を提供させていただきます。

ホームページアドレス：<http://www2.convention.co.jp/56jspho>

## プログラムの概要

詳細は、漸次、ホームページで更新しお知らせいたします。時間帯については、ホームページ中のタイムテーブルをご参照ください。

## 今回の学術集会の特徴とお願い

1. 基本的に同時進行4会場（シンポジウムは2会場）とし、うち1会場は常時英語セッション（シンポジウムあるいは一般演題口演）となります。
2. 一般演題（口演）の中から、査読委員の評価に基き、プログラム委員会において選考を行い、特に優れた4演題をプレナリーセッションで口演（英語）していただきます。
3. 一般演題（口演）では、抄録、スライドは英語、一部の演題では発表も英語といたします。英語セッションでは、質疑応答も可能な限り、英語でお願いします。
4. ポスターセッションについて

発表の時間帯を、ランチョンセミナー終了後の13:00～14:00としました。この時間帯は、他のプログラムはありません。筆頭演者はポスターの前に必ず待機していただき、質問者の質問に答えていただきます。座長は設けず、モデレーター：moderatorを1セッションあたり2名、お願いしています。モデレーターの方には、この時間帯に担当セッションのすべての演者と質疑・応答を交わしていただきます。もちろん、他の質問者も交え、積極的に懇談していただければと思います。

ポスターには、演者への連絡先を明記のうえ、ポスターの撤去は発表当日のすべてのプログラムが終了した後とします。質問をされたい方への可能な限りの便宜を図る目的ですので、演者の方はご了解ください。

モデレーターから推薦を受けたポスターセッションの演題の中から、優秀ポスター賞を選考し、2015年秋に開催される、第57回日本小児血液・がん学会の際に表彰を行います。

5. 2つの国際シンポジウムに加え、韓国小児血液・がん学会との交流セッションが設けられます。韓国小児血液・がん学会理事長による韓国小児血液・がん学会の紹介、日本小児血液・がん学会との交流文書調印式などを行います。また、韓国小児血液・がん学会の推薦を受けた、韓国若手研究者による2演題の発表が英語セッションの中で行われます。
6. 若手医師、研究者への海外留学への意欲を高めることを目的とし、海外留学から最近帰国された、4名の方の「若手留学体験記」のセッションを設けました。
7. 教育セッションは、教育講演を13コマ設けてあります。さらに、シンポジウム10「多診療科医師合同シンポジウム 難治性固形腫瘍を考える—基礎から臨床まで：神経芽腫」を教育セッションとしての1コマとしました。したがって企画された14コマのうち3コマ出席することで、専門医制度における研修単位が5単位取得できます。28～30日には教育講演が8:20～8:50まで3会場並列で3コマ、30日にはさらに午前中に教育講演が1会場直列で4コマ（うち2コマは、28日、29日に行われたものの2回目）、午後にはシンポジウム10が行われます。研修単位取得を目指される方はプログラムをよく吟味された上で、他のプログラムを聞き逃すことなく、どの教育セッションに出席するか、ご検討をお願いします。

## 8. Meet the expert

小グループによる interactive discussion を行います。6名の expert との方と、それぞれ朝食をとりながらの懇談の場を設定します。学術集会2日目, 3日目の7:20～8:10（予定）に開催します。事前申し込み制となりますので、ホームページでご確認ください。

## 主なプログラム

### 会長講演

「小児血液・がん学会専門医制度の検証, そして今後, どうあるべきか」

小田 慈 (岡山大学病院小児血液・腫瘍科)

座長 堀部 敬三 (名古屋医療センター 日本小児血液・がん学会理事長)

### 特別講演 1

「骨肉腫幹細胞の性状解析と分化制御による治療戦略の考案」

佐谷 秀行 (慶應義塾大学先端医科学研究所遺伝子制御研究部門)

座長 水谷 修紀 (東京医科歯科大学)

### 特別講演 2: “Now and Then” 講演

「輝いて美しく! 一医の神アスクレピオスの娘たちへのメッセージ」

水田 祥代 (九州大学小児外科名誉教授)

座長 田尻 達郎 (京都府立医科大学小児外科)

### 特別講演 3

「国境を越えた小児がんのキュア&ケア: グローバルアクションとチャレンジ」

渡辺 和代 (NPO 法人アジア・チャイルドケア・リーグ)

座長 堀 浩樹 (三重大学)

### 日韓小児血液・がん学会交流セッション

Key note lecture: 韓国小児血液・がん学会 (KSPHO) の紹介

Hong Hoe Koo, MD, PhD

Director, Department of Pediatrics, Sungkyunkwan

University School of Medicine, Samsung Medical Center

President, the Korean Society of Pediatric Hematology/Oncology

韓国小児血液・がん学会と日本小児血液がん学会との交流セレモニー

Hong Hoe Koo, MD, PhD

President, the Korean Society of Pediatric Hematology/Oncology

Keizo Horibe, MD, PhD

President, the Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology

## 若手留学体験記

最近、海外留学を終え、帰国した4名の留学体験の発表

## プレナリーセッション

特にすぐれた4演題を発表（英語）

## シンポジウム

### 1. 日米合同シンポジウム：New insight in Pediatric Hematology/Oncology

米国より、3名のシンポジストを招いた、白血病、悪性リンパ腫、神経芽腫についての国際シンポジウム（英語）

座長

小田 慈（岡山大学 第56回日本小児血液・がん学会会長）

石井 榮一（愛媛大学 前日本小児血液・がん学会理事長）

シンポジスト

William Carroll MD（Former COG ALL Disease Committee Chair: NYU）

Tom Gross MD, PhD（Former COG NHL Disease Committee Chair: NIH）

Julie Park MD（Chairperson COG Neuroblastoma committee, Seattle children's Hospital）

Souichi Adachi MD（JPLSG：足立 壮一 京都大学大学院）

Tetsuya Mori MD（JPLSG：森 鉄也 聖マリアンナ医大小児科）

Akira Nakagawara MD（JNBSG：中川原 章 佐賀県医療センター好生館病院）

### 2. 我が国における National study のフロントランナー

Infantile Leukemia

– The first actual National Study in Pediatric Hematology in Japan and International collaboration –

COG, Inter-fant, JPLSG 代表の下記3名に加え MLL 再構成など基礎的な話題1名を加えた4名のシンポジストによる、乳児白血病に関する国際シンポジウム（英語）

座長

加藤 剛二（名古屋第1赤十字病院小児医療センター血液腫瘍科）

康 勝好（埼玉小児医療センター小児血液・腫瘍科）

シンポジスト

Fumihiko Ishikawa MD（basic science, MLL：石川 文彦 理化学研究所統合生命医科学研究センター）

Pat Brown MD（COG：Sidney Kimmel Cancer Center, Johns Hopkins University School of Medicine）

Rob Pieters MD（Inter-fant：Princess Máxima Center for Pediatric Oncology）

Daisuke Tomizawa MD（JPLSG：富沢 大輔 東京医科歯科大学小児科）

### 3. 我が国における小児脳腫瘍の治療体制の実情と問題点を考える

日本脳腫瘍学会と合同で、小児脳腫瘍治療・研究に関する実情と、関連学術組織のより良い協力体制構築を考える

座長

松谷 雅生（日本脳腫瘍学会：美心会黒沢病院脳神経外科 埼玉医科大学名誉教授）

駒田 美弘（日本小児血液学会：三重大学小児科）

シンポジスト

西川 亮（日本脳腫瘍学会：埼玉医科大学国際医療センター脳脊髄腫瘍科）

市川 幸一（日本脳腫瘍学会：国立がん研究センター研究所脳腫瘍連携研究分野）

柳澤 隆昭（日本小児血液・がん学会：東京慈恵会医科大学脳神経外科）

原 純一（日本小児血液・がん学会：大阪市立総合医療センター）

#### 4. AYA 世代に対するがん治療の問題点

AYA 世代に対するがん治療の問題点と、今後の診療・研究体制構築について、疫学、頭頸部外科領域、成人・小児血液腫瘍領域の専門医、そして QOL・治療現場からの視点を加え討議する

座長

細井 創（京都府立医科大学小児科）

米田 光宏（大阪母子保健総合医療センター小児外科）

シンポジスト

岸本 誠司（頭頸部外科領域：亀田総合病院）

中田 佳世（疫学：大阪府立成人病センターがん予防センター）

楠木 重範（小児がん survivor, 医療者：チャイルド・ケモ・クリニック）

早川 文彦（血液腫瘍，成人：名古屋大学血液腫瘍内科）

小林 良二（血液腫瘍，小児：札幌北楡病院小児思春期科）

#### 5. 小児血液・がんと臓器移植・再生医療

肺移植，肝移植，心筋細胞再生，iPS 関連，各領域のシンポジストを招き，小児血液・がん疾患における臓器移植・再生医療について考える

座長

中畑 龍俊（京都大学 iPS 研究所）

猪股裕紀洋（熊本大学小児外科，移植外科）

シンポジスト

伊達 洋至（肺移植：京都大学呼吸器外科），

田口 智章（肝移植：九州大学小児外科）

王 英正（心筋細胞再生：岡山大学病院新医療研究開発センター）

江藤 博之（iPS：血小板：京都大学 iPS 研究所臨床応用研究部門）

#### 6. 小児がん治療と機能温存，その意義は

運動機能，視機能，生殖能，脳機能の機能温存について，各診療科でのコンセプトと対応，晩期障害について考える

座長

前田 美穂（日本医科大学小児科）

黒田 達夫（慶應義塾大学小児外科）

シンポジスト

川井 章（運動機能：国立がんセンター中央病院骨軟部腫瘍科）

鈴木 茂伸（視機能：国立がんセンター中央病院眼腫瘍科）

正木 英一（生殖機能：亀田総合病院放射線科）

仁尾 正記（胸・腹部臓器：東北大学小児外科）

## 7. 血友病の診療の進歩と今後の課題

血友病関連の新規治療や我が国における新しい臨床研究について討議する

座長

嶋 緑倫（奈良県立医科大学小児科）

瀧 正志（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院小児科）

シンポジスト

酒井 道生（宗像水光会総合病院小児科）

「定期補充療法の進歩と課題」

野上 恵嗣（奈良県立医科大学小児科）

「インヒビター治療の進歩と課題」

瀧 正志（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院小児科）

「我が国の血友病臨床研究」

白幡 聡（北九州八幡東病院）

「血友病センター構想」

松井 英人（奈良県立医科大学血栓制御医学講座）

「遺伝子/細胞治療の方向性」

## 8. 小児がん患者の成長・発達に沿った先を見越した移行期支援

**Whole person care** 一子どもと家族の気持ちに寄り添った成人移行期支援について考える。医師，看護師，小児がん経験者，教育行専門家をシンポジストとする，小児がん看護学会との合同シンポジウム

座長

真部 淳（聖路加国際病院小児科）

丸 光恵（東京医科歯科大学大学院国際看護開発学）

シンポジスト

日下奈緒美（国立特別支援教育総合研究所教育支援部）

「小児慢性疾患患者の教育支援」

石崎 優子（関西医科大学小児科）

「成人移行期にある小児がん患者・経験者の心身医学的問題」

福井 郁子（CoCo 訪問リハビリ看護ステーション）

「小児がん経験者と就労」

富岡 晶子（東京医療保健大学小児看護学）

「女性小児がん経験者の性・生殖機能の問題」

樋口 明子（がんの子どもを守る会）

「小児がん経験者のための社会資源・社会制度の現状と課題」

延 哲也（久留米大学小児がん経験者の会 Smile Days 代表）

「小児がん経験者の立場から伝えたいこと」

#### 9. 多職種医療者合同シンポジウム

難治性白血病を考える一チーム医療：多職種医療者の連携

小児血液・がん診療や研究に携わる多職種にまたがる医療者が一堂に会する本学会学術集会の特色を生かした，症例提示に基づいた，医師，看護師，緩和医療担当者など，多職種のシンポジストによるシンポジウム

座長

河 敬世（日本赤十字社近畿ブロック血液センター）

梶山 祥子（神奈川県立こども医療センター・ボランティアコーディネーター）

シンポジスト

症例提示：大阪府立母子保健小児医療センター血液・腫瘍科

指導医の立場から 澤田 明久

研修医の立場から 井坂華奈子

看護師の立場から 釜田佳央理

AML（非ダウン症候群 M7）について：濱 麻人（名古屋大学小児科）

造血細胞移植・GVHD：菊田 敦（福島県立医科大学臨床腫瘍センター）

QOL・在宅医療：南條 浩輝（かがやきクリニック）

看取り期のケア：名古屋裕子（宮城県立こども病院）

緩和医療：多田羅竜平（大阪市立総合医療センター緩和医療科）

#### 10. 多診療科医師合同シンポジウム

難治性固形腫瘍を考える一基礎から臨床まで：神経芽腫

小児血液・がん診療や研究に携わる多診療科の医師が一堂に会する本学会学術集会の特色を生かした，症例提示に基づいた，各診療科臨床医，病理医，基礎医学者などによるシンポジウム

座長

杉田 完爾（山梨大学小児科）

越永 従道（日本大学小児外科）

シンポジスト

症例提示：合井久美子（山梨大学医学部小児科）

基礎生物学：上條 岳彦（埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所）

臨床病理学：中澤 温子（国立成育医療研究センター病理診断科）

小児固形腫瘍における凝固線溶動態：石原 卓（奈良県立医科大学小児科）

化学療法：松本 公一：（国立成育医療センター小児がんセンター）

放射線療法：副島 俊典（兵庫県立がんセンター放射線部）

外科療法：田尻 達郎（京都府立医科大学小児外科）

造血幹細胞移植：高橋 義行（名古屋大学医学部小児科 / 成長発達医学）

## 教育セッション

1. 神経芽腫  
講師 大平 美紀（千葉がんセンターゲノム研究室）  
「小児固形腫瘍の分子病態の解析の現状」
2. 骨腫瘍  
講師 濱田健一郎（大阪大学器官制御外科学（整形外科））  
「骨軟部腫瘍の外科治療」
3. その他の腫瘍  
講師 岩月 啓氏（岡山大学皮膚科）  
「小児の皮膚悪性腫瘍」
4. 放射線治療  
講師 副島 俊典（兵庫県立がんセンター放射線治療科）  
「小児脳腫瘍の放射線治療」
5. 感染・輸血  
講師 小林 良二（札幌北楡病院小児思春期科）  
「造血細胞移植後の感染症」
6. 急性リンパ性白血病（2回講演）  
講師 加藤 元博（東京大学小児科・無菌治療部）  
「ALL~Biologyの進歩~」
7. 骨髄異形成症候群 / 再生不良性貧血（2回講演）  
講師 長谷川大輔（聖路加国際病院小児科）  
「JMMLと鑑別が必要な疾患」
8. 血小板系疾患  
講師 笹原 洋二（東北大学小児科）  
「ITPと鑑別が必要な血小板疾患」
9. 免疫  
講師 金兼 弘和（富山大学小児科）  
「免疫不全とリンパ増殖性疾患」
10. 保険診療  
講師 豊永 義清（社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院小児科）  
「小児血液・がんと保険診療」
11. 倫理・研究  
講師 藤原 康弘（国立がん研究センター企画戦略局）  
「基礎・臨床研究における研究倫理」



### **ランチョンセミナー**

外国からの講師4名を含む16のランチョンセミナーを企画しています。

### **Travel award**

外国からの応募演題については、査読審査の結果、該当する演題の筆頭著者にたいし Travel award を贈呈します。

### **会員懇親会**

11月29日(土) 19:00からホテルグランヴィア岡山で開催いたします。参加費は無料ですのでふるってご参加ください。

### **チャリティマラソン**

がんの子どもを守る会との共同開催で慣例のチャリティマラソンを11月29日(土)の朝、開催いたします。岡山市中心部の岡山城、後楽園沿いのコースを設定しています。我が国を代表するアスリートである、有森裕子さんが参加されます。会員の皆様のご参加を期待しています。

### **合同開催**

第12回日本小児がん看護学会(会長 猪下 光:岡山大学大学院保健学研究科教授)との、合同開催です。合同シンポジウムなどを行います。

### **共同開催**

第19回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウム(理事長 山下公輔:公益財団法人がんの子どもを守る会)との共同開催です。例年のように絵画展、個別相談会などが開催されます。